

山と歌

森野 水琴

山の麓の子どもたちは、山の気高さを仰いで校歌を歌う。
学年に応じて、日帰りの遠足で峠まで行くこともあれば、合宿して山に登るこ
ともある。

声がかだますほどの静けさ、深呼吸したくなるような森林浴。
声を出して歩くのは、熊よけのためだろうか。

合宿でキャンプファイヤーを囲んで歌うのも懐かしい思い出になる。

そのような子どもの頃の思い出が心に沁みて歌になる。

やまとうた 森にも野にも ひびかせて

水がかなでる 琴となりけり